

第2回 円卓会議合同会議 会議録

日 時 : 2010年5月25日

場 所 : 水俣市公民館第一研修室

参加者 : 環境モデル都市推進委員、円卓会議メンバー、市役所関係部課長等 約50名

内 容 :

1. 市長あいさつ

いろんな面でご意見を頂き、環境モデル都市づくりを進めていただき感謝しています。

明日(5/26)ゼロウェイストの会議で活動の状況を発表してくる。

水俣の個性として今後も環境に特化したまち作りをするにあたり、行政、企業、皆が同じ立場にたって意見交換しながらすすめる必要がある。

2. 各円卓会議から取組及び課題等の報告(取組写真と合わせて各円卓会議メンバーから)

(1) ゼロウェイスト円卓会議

11・22のゼロウェイスト宣言に向けてやってきたが11/22以降が本当の取組:宣言をこれからどう具体的にすすめていくのか?

☆具体的に進めはじめたもの

◎資源ごみステーション調査(今日から約1ヶ月)

ゼロウェイストの円卓会議の方以外にも参加いただき、現状を知ってもらう。

◎燃やすものの組成調査

実際は資源ごみよりも燃やすものに問題があるのでは?

→中身も調べながら、水俣が目指すゴミ全体を調べる。

◎給茶スポットの推進

自分でもってきたマイボトルで水俣にこられた人に水俣茶を飲んでいただく(ゼロウェイストのまちを実感していただく)

環境自治体会議、分科会で話をし、ゼロウェイストのリーダーシップをとり、世界で活動していきたい。

(2) 自転車・公共交通円卓会議

環境省の補助—自転車共同利用システムについて

どのような形をとれば、市民の皆に自転車を利用していただけるか?自転車のまち作りの見直しを行う

運用状況をみながら、もっと市民の皆に利用していただくにはどうしたらいいか?を考

えていく。

市民講座として自転車スタンプラリー実施。

水俣市内のお店や施設をまわりながら自転車の楽しさを実感して頂いた
みなくるバスと自転車の共同利用システムを今年度検討していきたい。

(3) 食と農と暮らし円卓会議

地産地消の取組として菜の花プロジェクト推進

人員不足があり、人員不足をどう解消するか？が課題

→学校との連携して取り組む

学校の給食

無農薬のもの（安心・安全なもの）を給食センターへ提供している。

給食センターへ行つての食事、見学を実施し

（感想として）

一人ひとりの子どもに対しての取組がすばらしい。

→アレルギーの人には専用の献立をつくって提供している

今後の取り組みとして

水俣の特産をいかしながらアイスクリームをつくり提供したい。

県にお願いして試作品をつくり（せりふねの大会に合わせて）、試食会を行う。

*そのときの雰囲気を見て今後の取組を考えたい。

(4) ISOのまちづくり円卓会議

水俣市では、平成15年から自己宣言により市民による監査制度が行われている（昨年まで7回）。

正式なISOはマニュアルにそって行うが、この円卓会議では、新家庭版ISO「みなまたエコダイアリー」（水俣オリジナルのもの）を1年かけて作った。

みなまたエコダイアリー（文章入力ではなく数値入力）

*問題はどのようにして普及すればいいか

従来70～80戸の普及だったが、それ以上の普及を目標とする。

→まずは関係者から取組を始め、普及に力をいれていきたい。

→今年度は、事業版のISOにも取り組みたい（水俣独自のもの）

(5) 環境学習円卓会議

市民、子供たちにも分かりやすい啓発的なパンフレットなどを作って行動に移してい

たい。ごみ問題がどういうふうになっているのか？など、ごみに特化していきたい。

費用がどれぐらいで何が問題で課題があるのか？

☆ごみをださない人、地元のものを利用することを奨励したほうがいいのではないか？

廃棄物の減少につながるのではないかな？

◎ 子供たち（将来にむけて）

環境教育→学校との連携で、幼児向けと高学年向けを分けて考える

- ・ 幼児向け：紙芝居など活用してもっと分かりやすいものを用意し、幼児のうちからやっていくべき。
- ・ 高学年向け：先生だけでなく、ゲストティーチャーを招いてこどもたちの環境教育につなげていきたい。

子供むけ、市民向けのパンフレットを作成し、ゼロウェイストとはなにかを知ってもらう。水俣のごみの事情はどうなのか？お金はどれぐらいかかっていて、ごみをださないことでどれぐらいかわっていくのか？市民にみせていくことが必要。

円卓会議がどういう取組をしていて、どういう行動をしているのか？

情報発信。ゼロウェイスト推進プラザのようなはこもの、民間、行政も入る形で組織作りが必要。

今、水俣で出されていない大型家具も修理して販売できるようなことも、その中でできればよい。安く提供でき、雇用の創出もできるのでは？

今後、メーカーさんの負担を要求していかななくてはならないのかもしれないと考えている。ごみにならない素材のお願い（発生抑制）をしていく必要もあるのでは？

☆全ての分野が情報を出して啓発をしてゼロウェイストのまちづくりに近づけるようにすることが大事。

3. 円卓会議の意義、進め方、目指す方向性について（熊本学園大学 宮北先生）

別紙参照

4 意見交換

ステーション調査の感想など

リサイクルするのにもエネルギーがかかる。ごみを減らすことが大事。

〇さん：2つのステーションを見ておもしろかった。地域の特色が出ている。

後家さん→1人世帯なのかな？

近くのステーションでも全く方法が違う

一緒にすればおもしろいよ！と呼びかけてもらいたい。

OYさん：地域の方と仲良くしててよかった。

勤めている方もいる分、遅くまでやっていた（思いやりもありよい）

高齢の方が多くの方は、ちょっとうまくいっていない部分があったが、

助け合ってやっていた。

自分のところとの違いをみてとても参考になった。

皆にも参加してもらいたい。

Sさん：廃食油の回収は、今の設備の中で処分できるのか？

Tさん：平成17年に水俣、芦北のリサイクルの促進をすすめる協議会を作ったのがきっかけ。

廃食油を家庭で流すと海が汚染される。石鹼をもっと普及させたい。

廃食油回収のモデル地域を3箇所選定し、5001の廃食油を回収した。

特徴；期限切れの油、エコナの油がある。

悪い油と良い油と分けてだしてもらう。

良い油→液体の石鹼 各公民館に支給。

悪い油→BDF化

クリーンセンターのフォークリフトに試験的に使っている。

収集運搬用や給食センターなど需要は十分あるのであまるということはないと思う。

Mさん：水俣の給茶スポット「茶飲み場」の紹介

みなまたのお茶のブランドのロゴマーク、パンフレット、リーフレットを作成。

ペットボトルで飲むのではなく、マイカップなどをもってきて頂いて飲む事がごみを減らす一番の方法である。

方法として、公共施設などにポスターをはりお茶が飲めるということをお知らせする。よそから来てもらっても、水俣がお茶の産地であることを知ってもらったり、ゼロウェイストってこういうことだと、実感してもらいたい。

企画課：自転車共同利用システムについて

4月末時点で登録者カードの登録数は約300枚。利用が多いところは、市役所、ふれあいセンター（街中へ買い物や病院に行く）。バスでこられて自転車をか

りるかたもおられる。

ふれあいセンターの2台はフル稼働しているが、もう一箇所のみちのえきの方では観光的な使い方など、利用が増えればと考えている。

Yさん：保育園における環境学習の取組について

子供たちへの環境学習の取組としては、当園では、牛乳パックの回収は自然にできている→多い月は9～10キロあつまる

毎月1回環境の日

紙芝居を使ってお話をしたり、環境に目を向けていってもらえれば良いと考えている。環境センターで体験やビデオをみたりして勉強したり、竹林間をまわる。→小さい頃から意識を高くもつことが大事であると考えている。

Uさん：給茶スポットについて

商店街にお客さんがこられたときお茶いっぱいどうですか？という活動をしてみたい。皆で知恵をだして、商店街でしないと始まらない→商店街にお茶を飲める所をつくる

現在、二小にお願いして、作品を商店街に展示（了承済み）

→子どもたちといかに地域づくりをしていくかが大事。

水俣のお茶を飲んでいきながら、子供たちの作品をみていただくなどして、商店街の活性化につなげたい。

また、健康ウォークラリー（遠足）を実施するなど、子どもたちが主役になれる行事をふやしていき、伝統行事などにふれあってもらいたい。

事務局から：環境モデル都市フェスタについて

昨年11月、環境モデル都市フェスタ開催したが、今年度も産業団地まつりと併せて開催したいと考えている。市民の方にもっと参加してもらい、環境を身近に感じてもらえるもの・円卓会議の活動をお披露目できるような場にしたい。

今後、各円卓会議で事務局から話があるかと思うので、ご協力をお願いしたい。

環境モデル都市推進委員会及び円卓会議の取組状況

	取組内容	状 況 ・ 意 見 等	課 題 ・ 対 策
推進委員会	環境モデル都市の将来像	・各円卓会議ごとに将来像を出してもらい、そこに向かって具体的な取り組みを進めていくべきではないか。	
	推進体制の見直し	・環境モデル都市を推進していくためには、庁内の担当課や円卓会議間の情報共有が必要なのでは。 ・メンバーを見直し、プロジェクトの推進のために必要な人に参加してもらう仕組みづくりが必要。	・具体的なテーマを設定した部会の設立。市民への参加呼びかけ。 ・メンバーの見直し。全体会議の開催。 ・市職員にも会議に出席してもらう。(関係部課長、担当者)
	市民へのゼロ・ウェイストの周知・啓発	・環境モデル都市フェスタの内容を十分検討し、今後の取組につなげていかなければ。市民をいかに巻き込んでいくかが重要。	・ゼロ・ウェイスト啓発冊子の作成、市民向け通信の検討。
ゼロウェイスト円卓会議	ゼロ・ウェイストの推進	・環境モデル都市フェスタに向けて、作業部会を設立し、ゼロ・ウェイスト宣言文を策定した。4月に市長との懇談会を実施。 ・他のゼロ・ウェイスト自治体とも連携して取組を進めていく。	作業部会を設立し、円卓会議の枠を越えて、取り組んでいくべきではないか。その中で、目に見える形で市民への普及も図っていく。 ・市民への普及・啓発方法 ・他の自治体との情報共有、連携の推進
	資源ごみステーション調査	ゼロ・ウェイストの実現に向けた政策を地域単位で考える基礎資料とする。また、市民への参加を呼びかけることで、ごみ事情に関心を抱いてもらう。 資源ごみステーション(約30箇所)で分別収集作業状況を確認し、聞き取り調査を実施(5/25～6/28)。市民約60名が参加。	・環境学習の観点や、労力の点から、市民調査員を募集する。 ・調査結果をどのように反映、活用させていくか。
	燃やすものの組成調査の実施	・資源物がまだ5割程度混入しているが、その割合がほぼ一定になってきている。資源物を出しやすい仕組みを考えていくべきではないか。 ・燃やすものの総重量の5割以上が紙おむつだった。布おむつの見直しや、紙おむつのリサイクル等も今後考えていくべきではないか。	・クリーンセンターで燃やすものの組成調査を実施。 ・紙おむつの使用の見直し
	給茶スポットの推進	・水俣のごみを減らし、みなまた茶をおいしく飲んでもらうために、市内に給茶スポット(茶飲み場)を広げていく。現在、作業部会の設立にむけて準備中。 ・助成金を利用して、給茶スポットの名称やロゴ、のぼり等のデザインをデザイナーに依頼し、作成。	・経常的な設置に関する仕組みづくり
自転車・公共交通円卓会議	自転車利用の促進	・自転車市民共同利用システムの運用開始に向けての意見交換。2月中旬から運用を開始し、4月末で登録者カードを300枚発行。 ・市民への共同利用システム、自転車利用推進のため、市民講座「自転車スタンプラリーでみなまためぐり♪」を開催。 ・みなまた環境塾で自転車利用に関するアンケート及び通勤効果を報告。自転車利用を推進するために、多様なニーズに対応した様々な取組が必要なのでは。	・市民への普及方法や利用方法の検討 ・共同利用システムを利用したパーク&ライドの検討(特にエコパーク) ・自転車の走行マップの作成 ・商店街でのポイント制度や市民への普及啓発方法の検討

自転車・公共交通円卓会議	自転車利用時の安全性 ノーマイカーデーの推進	・車優先道路、歩道が狭い。自転車教室等の実施検討。 ・市民ノーマイカーデーは周知宣伝不足。他の方法はないのか。	・自転車専用道の設置、安全マップ作り ・今年度、市で通行量調査を実施 ・企業における実施、市報やポスター等を利用した周知方法の検討
食と農と暮らし円卓会議	菜の花プロジェクトの推進 地産地消の推進	・寄ろ会が中心となり進めているが、従事者の不足など課題が多いため、学校との連携を進めている(菜種刈り取り・火のまつりへの参加など)。 ・増加している遊休地を利用した菜の花の植栽を実施(2区・18区) ・労力軽減のため、小型コンバインの開発が必要なのではないか。 →八代に視察見学を実施 ・地元の安心・安全な作物、食品の摂取を進めるため「地産地消の日」を制定し、家族そろって水俣産のものを食べる日にしたい。 ・目玉商品(地産アイスcream)の開発。県から技術者を招いて試作会及び試食階を実施。	・市民への参加を促す仕組みづくり ・作業効率を上げるための小型コンバインの開発 ・菜種の確保(県の菜種無料配布のとりやめによる) ・廃食油の利用促進(BDF化推進) ・地産地消の実現のための情報の収集・提供の仕組みづくり、生産地(給食畑)の確保 ・地元の特産物を生かした加工品(アイスcream)の開発。地産アイスcreamを活用した地産地消の推進
ISOのまちづくり円卓会議	新家庭版ISOの作成 新家庭版ISOの普及方法の検討	・以前取り組まれていた家庭版ISOは、学校版ISO等に比べて普及が進んでいなかった。市民に取り組みやすい新家庭版ISO「みなまたエコダイアリー」を作成。 ・新家庭版ISO「エコダイアリー」が完成(3000部印刷済)。普及に向けて、市報や各種団体への依頼を通して協力を呼びかけていく。 ・まずは市役所職員や、婦人会、学校PTA等の関係団体から取組を始めてはどうか。 ・「エコダイアリー」に取り組むメリット(コンテストの開催・モニター制度等)を検討すべき。 ・今年度は事業所版ISOについて検討していく。まずは、事業所向けのエコ・スマイルプロジェクトを展開し、意識啓発を図ってはどうか。	・普及方法の検討、わかりやすいエコダイアリー紹介チラシの作成 ・学校版ISOとの連携、仕組みづくり ・コンテスト等の実施による記念品贈呈など ・事業所向けエコスマイルプロジェクトの展開、事業所版ISOの作成等
環境学習円卓会議	ごみゼロに向けた環境学習	・学校との連携が必要。発達段階に応じた学習プログラムが必要ではないか(学習指導要領にのっとった形のもの)。 ・環境学習のカリキュラムはないので、環境省のパンフレット等を活用してはどうか。 ・ある程度知識のある人たち(リサイクル推進員)に重点的に学習させることで、地域のリーダーを育てることになる。 ・自分で調べるようなパンフレットが必要では。 ・ゼロ・ウェイスト円卓会議など、他の円卓会議との連携	・学習カリキュラム、ゲストティーチャーの紹介、活用(冊子の作成) ・体系的に環境学習ができる場所(組織)の設立を検討。 ・紙芝居(ごみ女連)の読み聞かせ等での活用 ・学習カリキュラム、ゲストティーチャーの紹介、活用 ・リサイクル推進員に対する研修会の充実、ZW周知用のパンフレット等の整備